

より良い痙縮治療のために

～ボツリヌス療法のご案内～

小児科 山本 崇裕

痙縮とは？

痙縮（けいしゆく）は、筋肉が過剰に緊張して硬くなる状態です。これは脳や脊髄の病気（脳性麻痺、脳卒中、頭部外傷、脊髄損傷など）が原因で発生します。筋肉が意図せず緊張しすぎること、以下のような問題を引き起こすことがあります。

- ・手足が突っ張って固まる
- ・痛みを伴う
- ・体の変形を引き起こす

ボツリヌス療法とは？

ボツリヌス療法は、痙縮の治療法のひとつです。この治療では、「ボツリヌストキシン」という天然のタンパク質を主成分とするお薬を、緊張が強い筋肉に注射します。ボツリヌストキシンは、神経から筋肉への「収縮の命令」を

一時的にブロックすることで筋肉が過剰に緊張するのを抑え、柔らかくする効果があります。治療の特徴は以下のとおりです。

- ・効果持続期間：約 3～6 か月
- ・副作用：注射部位の軽い痛みや一時的な筋力低下（ほとんどの場合一時的）
- ・注意点：効果が徐々に切れるため、定期的な評価と治療が必要です。

ボツリヌス療法以外の治療法

痙縮の治療には、他にも以下の方法があります（表）。

- ・理学療法（リハビリテーション）
- ・薬物療法
- ・バクロフェン髄注療法（ITB 療法）
- ・外科的治療
- ・装具療法
- ・経皮的電気刺激療法（TENS）・経頭蓋

痙縮に対する治療法の比較

治療法	長所	短所
ボツリヌス療法	局所的に効果を発揮。副作用が少なく、リハビリテーションの効果を促進。	効果が一時的で定期的な治療が必要。複数回治療で効果減弱の可能性。
理学療法（リハビリテーション）	非侵襲的で安全性が高い。筋肉の柔軟性改善、関節拘縮予防に効果。	効果が現れるまで時間がかかる。重度の痙縮には限定的。
薬物療法（経口薬）	全身的な効果が期待でき、内服で簡単に投与可能。	筋力低下や眠気などの副作用が出ることがある。
バクロフェン髄注療法（ITB療法）	重症例に非常に有効で、全身の筋緊張を持続的にコントロール可能。	手術による侵襲が必要で、感染や装置トラブルのリスクがある。
外科的治療	痙縮を永久的に軽減できる可能性あり。	手術リスクが伴い、リハビリが必要。効果が限定的な場合がある。
装具療法	非侵襲的で安全。筋肉や関節の変形防止に有効。	日常生活で装着が煩わしいと感じる場合がある。
経皮的電気刺激療法（TENS）・経頭蓋磁気刺激（rTMS）	非侵襲的で副作用が少ない。中枢神経系への作用が期待できる。	効果が限定的で高価な機器が必要。継続的な治療が求められる。

磁気刺激（rTMS）

これらの治療を患者さんの状態に応じて組み合わせることで、より高い治療効果が期待されます。

当院のボツリヌス療法

長良医療センター小児科では、ボツリヌス療法を実施するための入院診療体制を整備しました。痙縮治療に豊かな経験を持つセラピストと連携し、以下の流れで治療を行います。

① 診察・症状の確認

小児科医とセラピストとで症状を評価し、治療方針を決定します。

② ボツリヌストキシンの投与

注射部位の痛みを最小限に抑えるため、鎮静・鎮痛を行いながら、安全に投与します。

③ 理学療法・装具療法

注射後のリハビリテーションや装具療法を通じて、治療効果を最大限に引き出します。

入院期間はおおよそ1～2週間ですが、患者さん、ご家族と相談して決定します。私たち長良医療センター小児科では、痙縮治療を通じて患者さんの生活の質を向上させるお手伝いをしています。不明な点やご質問がございましたら、どうぞお気軽にお問い合わせください。